

横芝光町国保の財政状況

国民健康保険(国保)は、病気やケガのときに安心して医療を受けられるように、被保険者(加入者)が保険税を出し合い、必要な医療費に充てて相互に助け合う医療保険制度です。

現在、町国保を取り巻く状況は、ますます厳しさを増しています。長引く景気の低迷による個人所得の落ち込みにより国保税収は減少する一方、年々増加する医療費は国保財政を大きく圧迫し、収支安定のための有効な手立てが求められています。

国保財政の運営

町内に住所を有する方は、職場の健康保険や後期高齢者医療など、他の医療保険に加入している場合を除き、横芝光町国民健康保険の被保険者となります。平成24年4月時点の被保険者数は10,142人で、町全体の人口の約40%を占めています。

国保は、医療費の支払い、後期高齢者への支援金など必要な支出金額のうち、国・県補助金や負担金を除いた額を、被保険者のみなさんから国保税で賄う仕組みとなつ

ています。このため、医療費が増加すれば、本来は国保税の負担も増えることになりま

すが、町では合併以来、財政調整基金の取崩しや町一般会計からの繰入れ、国の特別交付金の獲得などで、被保険者の負担増によらず収支のバランスを図ってきました。

しかし、国保医療費は今後も一層の増大が予測され、一方で高齢化の進展や就業構造の変化等により、国保税収は年々減少しているため、国保の財政運営はますます厳しさを増しています。

国保財政切迫の要因

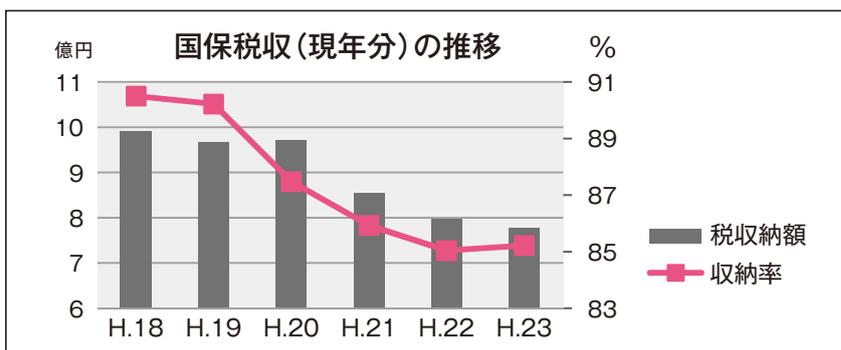
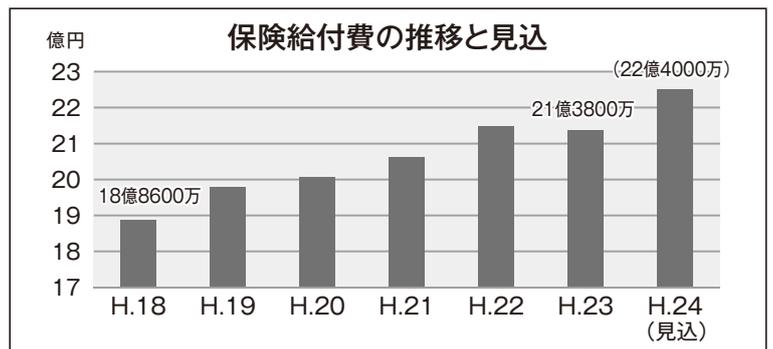
① 医療費の増加

国保財政が切迫した背景には、医療費の増加が大きく影響しています。国保会計の歳出の約3分の2を占める保険給付費(町が支払った医療費)は、平成23年度は21億3,800万円で、合併した平成18年度と比較して、2億5,200万円(年平均5,000万円)も増加しています。平成24年度は、対前年比1億円増のペースで伸びています。

② 国保税収の減少

国保に加入する方は、年金収入のみの高齢者や、離職等による収入の不安定な被保険者が増加しています。また、長引く不況の影響で被保険者の所得が減少し、国保税収が大きく減少していることも、財政切迫の要因のひとつとなっています。

※平成21年度からは、国保税のうち「資産割」(固定資



産税に応じた分を廃止し、被保険者の負担軽減を図りましたが、その後も所得の落ち込みは続き、また資産割以外の税率も合併以来据え置いていることから、国保税の減収傾向が続いています。